

# 分野別方針 8 農林業

いのち  
～人と生命と環境を育む京の農林業を目指す～

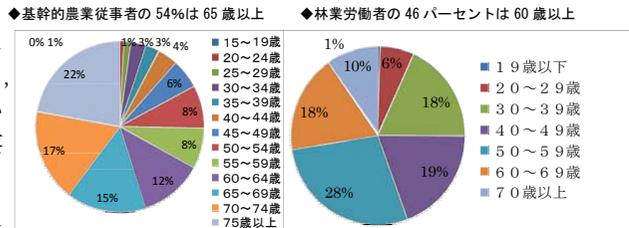
## 基本方針

高齢化や後継者不足、農地や森林の荒廃進行に対処するため、職業として魅力ある農林業を再構築し、その魅力を発信することにより様々な担い手を確保する。

また、農林業の持つ多面的機能の維持と発揮により、資源循環型産業として社会や環境に貢献するとともに、市民の農林業に対する期待に応えるため、市民の農林業への参画や農林業を通じた自然とのふれあいの機会を創出していく。

## 現状・課題

- 収入の不安定さや就労環境の厳しさ等から新規に就労する者が少なく、農林業従事者の高齢化と減少が続いていることから担い手の育成が必要である。
- 経営耕地面積が小規模で分散しているため、効率的な農業経営が必要である。
- 野生鳥獣や病害虫による農林産物被害や耕作放棄地が増加していることから、農地や森林を適正に管理する必要がある。
- 地球温暖化対策につながる森林整備のため、作業道整備等の条件整備が必要である。
- 安心安全な食を生み出す農業や森林保全活動に対する市民の関心が高まっており、市民が農林業に参画する機会を増やす必要がある。



出典：2005 農林業センサス

出典：平成 20 年京都府林業統計

◆ 牛の放牧による猿害対策



◆ 高性能林業機械による森林整備



◆ 市民によるナラ枯れ木伐採処理風景



◆ 小学生の体験学習風景（堀川ごぼう）



## 政策の目標

### <みんなで目指す 10 年後の姿>

- 京都ブランドなどを生かした付加価値の高い農林産物の生産や、効率的作業の実現等により所得が増大し、農林業が産業として魅力あるものとなり、農林家に加えて一般市民からも多様な新しい担い手が育つ環境となっている。
- 総合的な野生鳥獣対策の実施や、京の旬野菜の生産など環境に過度な負荷をかけない取組の普及、二酸化炭素吸収につながる間伐等の森林の適切な整備と木材の活用が進み、農林業が環境や社会に貢献できる状態となっている。
- 市民農園など農林業にふれる機会の創出や、学校教育において農林業体験学習が実施されることにより、市民の農林業への参画と理解が進んでいる状況となっている。

### <政策指標>

指標	現況値	目標値
1 法認定農業者 (概ね年間 400 万円以上の所得を目指し効率的な経営を営む農業者)	158 人 (H20)	250 人 (H31) ※
2 間伐面積 (スギやヒノキの人工林における間伐面積)	535ha/年 (H20)	1,000ha/年 (H31) ※
3 市民農園區画数	3,825 区画 (H20)	5,000 区画 (H31) ※

※ 農林行政基本方針(案)で設定しているもの

## 市民と行政の役割分担と共汗

